

特集「地域密着特有技術」を企画して

特集担当編集委員 大矢 仁史、永禮 三四郎

東京への一極集中と少子化の進行で地方での人口減少、過疎化から地域経済の疲弊が長く続いている。現政権でも地方創生を目的としたプロジェクトが多く実施されており、今後の政策の柱となっていくことは間違いのないであろう。

そのような背景から、地域に特有な資源や技術に根ざした技術開発を実施し、現在産業化、事業化を行っている例を紹介する特集を企画した。

協同組合 米ワールド21普及協議会の高橋仙一郎氏には、「世界の食料事情と新しい米粉技術について」と題し、米どころの新潟県で行われている米粉の利用に関して紹介いただいた。近い将来に予想される世界的な食糧不足に備えて食物を海外輸入に依存するのではなく、日本の気候、風土に合った米作を増やしていくための米粉の粉体工学的な物性評価とそれに基づく米粉を使った製品の説明は興味深いものであった。

富山県工業技術センター ものづくり開発センターの村山誠悟氏、近藤兼司氏、(株)スギノマシンの小倉孝太氏には「『とよまナノテクコネクト・次世代ものづくり創出プログラム』における湿式微粒化製造法の開発、バイオマスナノファイバーの応用について」と題し、各種応用技術の中で、特に富山の地場産業である製薬分野への応用として、コンタミの少ない薬剤粒子の微粒化手法を紹介いただいた。また、バイオマスナノファイバー化による化粧品などへの利用に関しても解説いただいた。

高橋練染(株)の高橋聖介氏には「伝統と革新を融合し、『京都プリント』を世界へ」と題し、京都市の伝統工芸品である西陣織、友禅染で使われていた捺染（プリント）技術を発展させ、seisuke88ブランドのアパレル、インテリアなどの商品化を図り、その技術を応用した進化銀を開発し、世界に売り出す計画について解説いただいた。

(株)マツシマ メジャテックの松島徹氏には「地域産業の石炭からのスタート」と題し、筑豊炭田から産出する石炭の比重分離装置からスタートした企業が、地場産業がセメント、鉄鋼へと転換していくのに呼応して計測技術へと発展させ、現在では世界に通用する計測技術を開発した歴史を紹介いただいた。

公財北九州国際技術協力協会の川崎順一氏には「製鐵所と地域産業開発」と題し、八幡製鐵所（現新日鐵住金）の発展とその負の遺産としての公害問題の発生、さらに、その公害問題克服の歴史を紹介いただいた。また、その経験、技術を地球環境問題解決に利用し、環境、リサイクル分野での新産業創出を目指した北九州エコタウン創出から環境首都としての取り組みを解説いただいた。

(株)バンブーテクノの山城恵作氏、安岡丈博氏、九州工業大学の西田治男氏には「福岡八女『竹の粉碎と樹脂フィラーへの応用』」と題し、福岡県八女市に育成している竹林の地域公害問題克服とその利用を産学連携で行い、常温過熱水蒸気を用いて竹から取り出した繊維を使った新素材として開発したBP/PPコンポジットに関して紹介いただいた。

本特集号が、これからどのような地域発展を推進するか、また、そのためには何が必要かを考える機会となり、新たな地域創生となる産業育成のヒントを見つける助けとなれば幸いである。